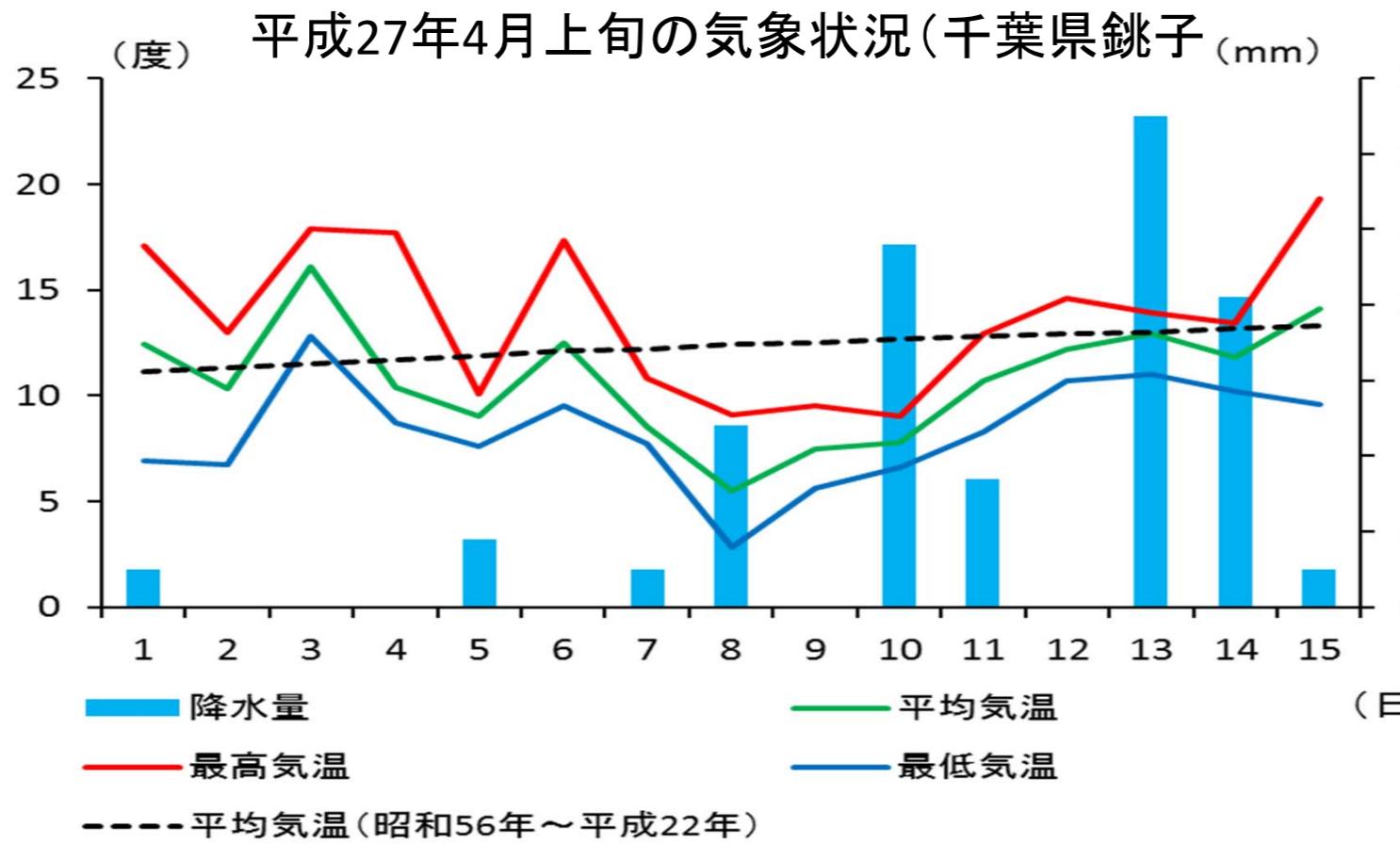


4 トピック — 春先の天候不順による影響について —

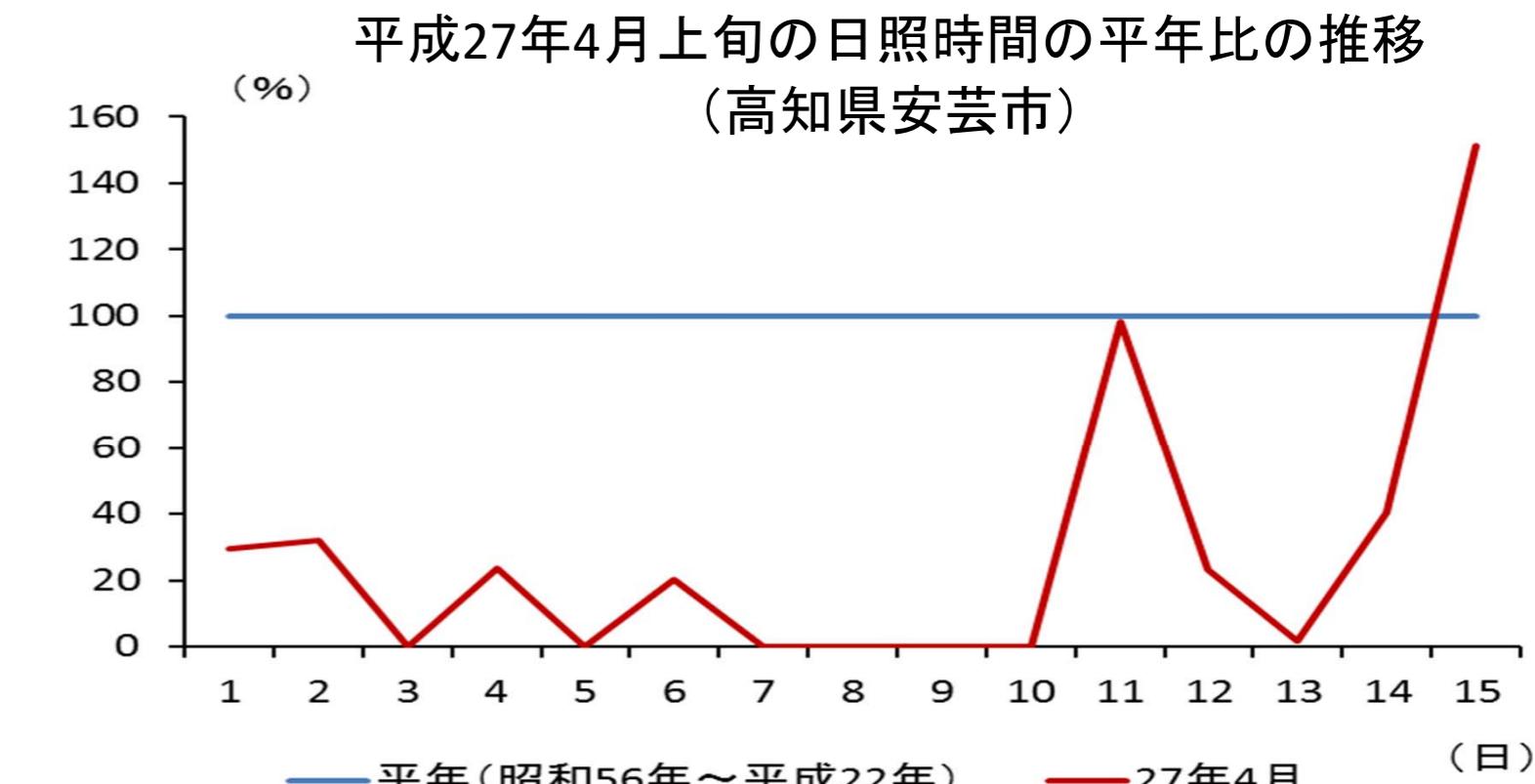
春先は、天気が周期的に変わり、品目により産地リレーの移行期でもあることから、野菜の需給動向が変調をきたすことがある。本年は、3月には西南暖地の曇天や低温もあり、特に果菜類の卸売価格が大きく上昇したが、さらに、4月に入ると東日本と西日本の上空を強い寒気を伴う低気圧が通過する状況が続いたため、4月上旬には、関東や西日本を中心に平年に比べて低温、多降雨、日照不足の傾向が顕著となった。例えば、東京でも4月としては5年振りの降雪を観測して、真冬並みの寒さの日が現れ、千葉県の銚子では統計開始以来90年振りの降雪を記録し、さらに高知県や宮崎県など西南暖地を中心に多くの地点で日照時間が平年の4割以下を記録するなど、例年にはない天候不順となった。

このため、野菜産地では、品目により生育・肥大・収穫の遅れや、今後の病害発生の懸念も一部で指摘されている。例えば、東京中央卸売市場のキャベツの卸売価格をみると、3月下旬から4月上旬にかけて大幅な上昇となり、果菜類については、例年にはない日照不足のため、なすの卸売価格は10日以降、大幅な上昇となった。

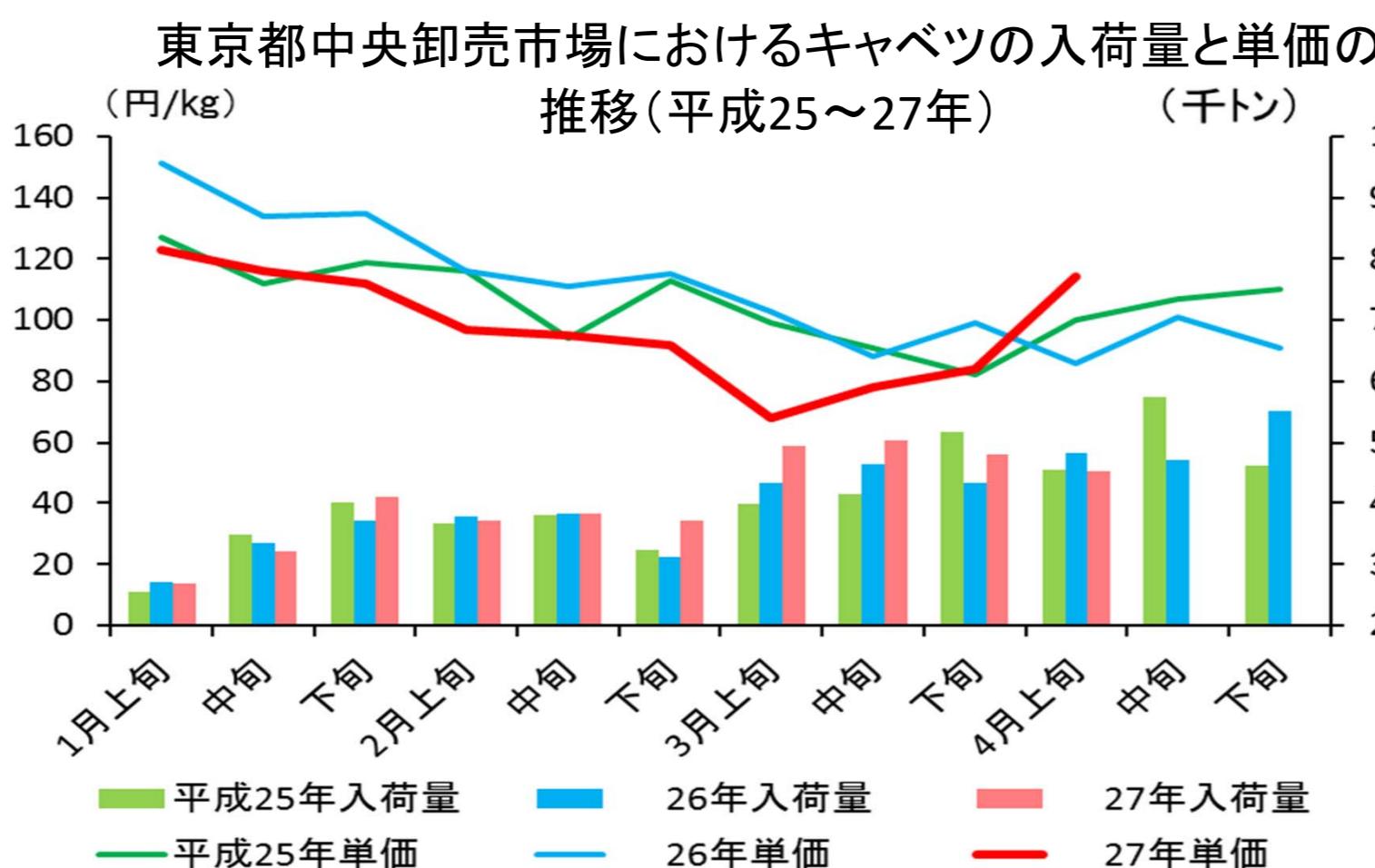
気象庁発表（4月16日）の向こう1カ月の天候予報では、北日本と西日本では、平均気温は平年並みか高く、東日本は平年並みの見込みであるが、北日本から西日本の太平洋側では、低気圧や前線の影響を受けやすく、降水量は平年並が多いとの見通しである。野菜産地では、これから気温が上昇し、日照時間が伸びるなど野菜の生育盛期を迎えることから、最近の天候不順の影響が緩和され出荷の回復も期待されるが、暫くの期間は、天候の推移と合わせて需給・価格動向を注視することが重要である。



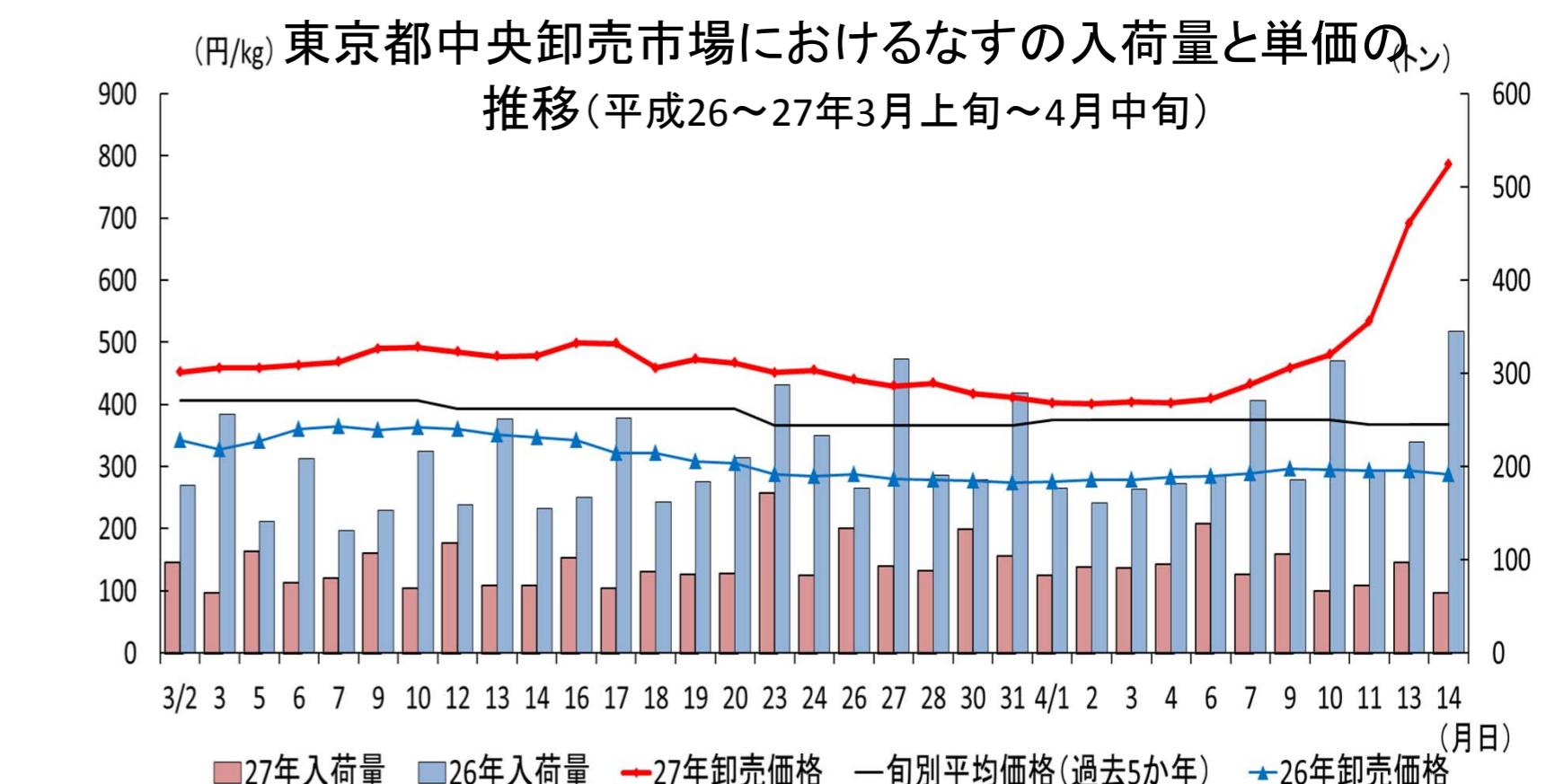
資料:気象庁



資料:気象庁



資料:農畜産業振興機構「ベジ探」(原資料) 農林水産省「青果物日別取扱高統計結果



資料:農畜産業振興機構「ベジ探」(原資料) 農林水産省「青果物日別取扱高統計結果

●問い合わせ先 独立行政法人農畜産業振興機構 野菜需給部 需給業務課 戸田、河原、斎藤、海老沼 TEL03-3583-9483、FAX03-3583-9484 ご意見、ご要望をお寄せください。

◆「野菜の需給・価格動向レポート」は月2回公表しています。公表時にメルマガでお知らせしますので、ご希望の方はベジ探のトップ画面、メルマガ配信登録・解除ボタンから登録してください。

★この「野菜の需給・価格動向レポート」は、http://vegetan.alic.go.jp/vegetable_report.htmlに掲載しています。